

専門分野				
生活科学、農芸化学、基礎医学				
研究課題				
食と栄養、健康と食生活、栄養生理学、食品機能、栄養生化学				
教育活動				
担当授業科目(学部)				
公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学Ⅱ、食品衛生学、基礎栄養学Ⅱ、公衆衛生学実習、食品衛生学実験、演習A、演習B、卒業研究、管理栄養士特別演習				
担当授業科目(大学院)				
食品保健・機能学特論、食品保健・機能学演習、研究指導				
事項	年月	対象者	概要	
教育方法の実践例				
過去5年間の分野別国家試験問題小テスト作成	平成25年～28年 毎年4月	食物栄養学科 管理栄養士課程4回生	国家試験対策講義を行うにあたり、年度毎に過去5年間の国家試験問題を分野毎に小テストを作成・更新し、学生の理解度の進展と評価に使用し、国家試験合格率の上昇に大きく貢献した。	
「社会・環境と健康」分野の過去5年間の国家試験問題小テスト・ドリル作成	平成25年～28年 毎年9月	食物栄養学科 管理栄養士課程3回生	演習Aでの「社会・環境と健康」分野の国家試験対策講義において、年度毎に担当分野の過去5年間の国家試験問題小テスト・ドリルを作成・更新し、学生の理解度の進展と評価に使用し、国家試験合格率の上昇に貢献した。	
公衆衛生学Ⅰ・Ⅱおよび食品衛生学の国家試験・模擬試験問題を授業日毎に教材倉庫で公開	平成25年～28年 毎年4月	食物栄養学科 管理栄養士課程2回生	公衆衛生学Ⅰ・Ⅱおよび食品衛生学の授業において、授業日毎に関連項目の国家試験・模擬試験問題を教材倉庫で公開し、2年後の国家試験受験を見据えて練習を行い、早期からの意識高揚を行った。	
作成した教材・資料集				
公衆衛生学実習追補作成	平成23年～28年 毎年11月	食物栄養学科 管理栄養士課程2回生	公衆衛生学実習を行うにあたり、実習書の追補として、実習書に記載されていない項目の解説や器具の説明、および最新の統計資料等を、年度毎に作成した。	
その他教育活動上特記すべき事項				
研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単共 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
著書・訳書・CD等				
これからの公衆衛生学—社会・環境と健康	共	平成25年4月改訂 第2版	南江堂	医学系・食品学系学生の社会・環境と健康分野の教科書・参考書として推奨できる著書である。 担当部分:145, 199-201頁 第5章 主要疾患の疫学と予防対策 栄養・代謝疾患において、脂質異常症について解説した。 第7章 環境と健康 リスクアナリシスについて解説した。 田中平三、東あかねら著者52名
社会・環境と健康—公衆衛生学	共	平成26年2月	建帛社	食物栄養関連学科の公衆衛生学分野の教科書・参考書として推奨できる著書である。担当部分:10頁～25頁第2章の生

				態系と人々の生活では、環境保全と地球環境問題について解説した。環境汚染と健康影響では、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等公害について解説した。環境衛生では、温熱、上下水道、廃棄物処理等について解説した。北田 善三、須崎 尚、大坪 勇、小川 博、岸本 満、近藤 浩代、阪口 武洋、武山 英麿、渡邊 智之
社会・環境と健康—公衆衛生学	共	平成 27 年 10 月 (第2版)	建帛社	初版を最新の統計値を使用して改訂した。 担当部分:10 頁～25 頁 第2章 環境と健康について解説した。 北田 善三、須崎 尚、大坪 勇、小川 博、岸本 満、近藤 浩代、阪口 武洋、武山 英麿、渡邊 智之
<b>学術論文</b>				
Dysregulated expression of fatty acid oxidation enzymes and iron-regulatory genes in livers of Nrf2-null mice.	共	平成 24 年 11 月	J Gastroenterol Hepatol.	Nrf2-ノックアウトマウスの代謝異常の解明を目的として、肝臓の遺伝子発現を検討した。その結果、脂肪酸のβ-酸化酵素系ならびに鉄代謝調節系において遺伝子の異常発現が観察された。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 27(11): 1711-7 Tanaka Y, Ikeda T, Yamamoto K, <u>Ogawa H</u> , Kamisako T.
脂質異常症—基礎・臨床研究の最新知見—	共	平成 25 年 6 月	日本臨床	脂質異常症に関する基礎・臨床研究の最新知見として、脂質関連マーカー測定と菌臨床的意義について、リポタンパク分画精密測定を中心として解説した。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 71 巻(増刊号3):390-4 上裕俊法、小川 博
Ezetimibe increases hepatic iron levels in mice fed a high-fat diet.	共	平成 25 年 6 月	J Pharmacol Exp Ther.	高脂質(ラード)食摂取マウスにおいて、エゼチミブ投与は肝臓の鉄含有量の上昇をもたらすことを明らかにした。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 345(3): 483-91 Kishino Y, Tanaka Y, Ikeda T, Yamamoto K, <u>Ogawa H</u> , Iwatani Y, Kamisako T
Role of Nrf2 in the alteration of cholesterol and bile acid metabolism-related gene expression by dietary cholesterol in high fat-fed mice.	共	平成 26 年 3 月	J Clin Biochem Nutr.	高脂質(ラード)食摂取マウスにおいて、食餌性コレステロールによるコレステロールや胆汁酸代謝に係わる遺伝子発現の変動に対する NRF2 の役割について検討した。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 54(2): 90-4 Kamisako T, Tanaka Y, Kishino Y, Ikeda T, Yamamoto K, Masuda S, <u>Ogawa H</u> .
Geranium dielsianum extract powder (MISKAMISKATM) improves the intestinal environment through alteration of microbiota and microbial metabolites in rats.	共	平成 26 年 11 月	J Func Foods	ペルーハーブの一種であるミスカミスカを、雄性ラット(6 週齢)に 9 週間摂取させると、乳酸桿菌およびビフィズス菌増殖促進作用、ならびに腸内環境改善作用が認められた。このプレバイオティック作用

				には、3-ヒドロキシフェニル酢酸の関与が示唆された。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 11: 12-9 Takanori Ikeda, Yuji Tanaka, Kazuo Yamamoto, Hiroko Morii, Toshinori Kamisako, <u>Hiroshi Ogawa</u>
ミスカミスカの食品機能性-生活習慣病予防・改善とアンチエイジング	共	平成 27 年 8 月	Anti-aging medicine	ペルーハーブの一種であるミスカミスカの食品機能性に関し、これまでに得られた生活習慣病予防・改善作用のみならず、美容・アンチエイジング作用等の研究成果について概説した。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 11(4): 561-8 <u>小川 博</u> 、池田 高紀
Feeding hydroalcoholic extract powder of <i>Lepidium meyenii</i> (maca) increases serum testosterone concentration and enhances steroidogenic ability of Leydig cells in male rats.	共	平成 28 年 3 月	Andrologia	雄性ラット(8週齢)に6週間マカエキス末を摂取させると血中テストステロンの上昇が認められた。この上昇は、ライディヒ細胞におけるテストステロン産生能力亢進との関連が示唆された。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 48: 347-54 Y. Ohta, K. Yoshida, S. Kamiya, N. Kawate, M. Takahashi, T. Inaba, S. Hatoya, H. Morii, K. Takahashi, M. Ito, <u>H. Ogawa</u> & H. Tamada
6-Methylsulfinylhexyl isothiocyanate prevents high-fat diet-induced fatty liver but fails to attenuate hepatic iron accumulation in mice.	共	平成 28 年 11 月	Clin Exp Pharmacol Physiol.	マウス実験において、6-メチルスルフィニルヘキシルイソチオシアネート摂取は、高脂肪食摂取により誘導された脂肪肝の抑制作用が認められた。しかし、肝臓における鉄蓄積への影響はなかった。 (共同研究につき、本人担当部分抽出不可能) 43(11): 1153-6 Tanaka Y, Ikeda T, Yamamoto K, Masuda S, <u>Ogawa H</u> , Kamisako T.

#### 学会発表

雄性 OLETF ラットにおけるペルーハーブエキス末の腸内環境改善作用	共	平成 24 年 10 月 20 日	日本栄養・食糧学会第 51 回近畿支部大会	池田高紀、田中裕滋、森井浩子、上碓俊法、 <u>小川博</u>
雄性 OLETF ラットにおけるペルーハーブエキス末の糖・脂質代謝改善作用	共	平成 25 年 5 月 25 日	第 67 回日本栄養・食糧学会大会 +K42:N51B42K42:N50K42K42:N55	高橋勝美、池田高紀、井藤美咲、森井浩子、田中裕滋、上碓俊法、 <u>小川 博</u>
雄性 OLETF ラットにおける腸内環境異常とペルーハーブエキス末摂取による改善作用	共	平成 25 年 5 月 25 日	第 67 回日本栄養・食糧学会大会	池田高紀、田中裕滋、森井浩子、上碓俊法、 <u>小川博</u>
高脂肪食摂取 Nrf2 欠損マウスにおけるオルチブライズによる肝障害の改善効果	共	平成 25 年 6 月 6 日	第 49 回日本肝臓学会総会	田中裕滋、池田高紀、山本和夫、 <u>小川博</u> 、上碓俊法
高脂肪食摂取マウスにおけるエゼチミブ投薬による肝内鉄値増加	共	平成 25 年 6 月 6 日	第 49 回日本肝臓学会総会	田中裕滋、池田高紀、山本和夫、 <u>小川博</u> 、上碓俊法
高フルクトース食摂取が雄性 SD ラットの糖・脂質代謝および腸内環境に及ぼす影響	共	平成 25 年 10 月 26 日	日本栄養・食糧学会第 52 回近畿支部大会	池田高紀、田中裕滋、上碓俊法、 <u>小川博</u>
エゼチミブ投薬によるジオスゲニン誘発胆汁鬱滯性肝障害の抑制効果	共	平成 26 年 5 月 29 日	第 50 回日本肝臓学会総会	田中裕滋、池田高紀、山本和夫、 <u>小川博</u> 、上碓俊法
ワサビ由来 6-メチルスルフィニルヘキシルイソチオシアネートはマウスの高脂肪食誘発性脂肪肝を Nrf2 依存性に改善する	共	平成 26 年 5 月 29 日	第 50 回日本肝臓学会総会	田中裕滋、池田高紀、山本和夫、 <u>小川博</u> 、上碓俊法

ペルーハーブ Geranium dielsianum エキス末摂取によるラットの腸内環境改善作用 -エキス末代謝物を介する効果	共	平成 26 年 5 月 30 日	日本栄養・食糧学会第 52 回近畿支部大会	池田高紀、田中裕滋、上裕俊法、 <u>小川博</u>
ラット精巢のテストステロン産生に及ぼす Lepidium meyenii(マカ)の影響	共	平成 26 年 9 月 9 日	第 157 回日本獣医学会学術集会	太田祥弘、吉田圭佑、神谷聡、川手憲俊、高橋正弘、稲葉俊夫、鳩谷晋吾、森井浩子、高橋勝美、井藤美咲、 <u>小川博</u> 、玉田尋通
オリーブオイルが高フルクトース摂取ラットの脂質代謝に及ぼす影響-肝脂質動態とメカニズムを中心として	共	平成 26 年 10 月 25 日	日本栄養・食糧学会第 53 回近畿支部大会	池田高紀、梁川啓人、田中裕滋、上裕俊法、 <u>小川博</u>
オリーブオイルが高フルクトース摂取ラットの脂質代謝に及ぼす影響-血清脂質動態を中心として	共	平成 26 年 10 月 25 日	日本栄養・食糧学会第 53 回近畿支部大会	梁川啓人、池田高紀、田中裕滋、上裕俊法、 <u>小川博</u>
若ゴボウ抽出物が乳酸桿菌およびビフィズス菌の増殖に及ぼす影響	共	平成 27 年 10 月 10 日	第 54 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会	池田高紀、甚野亜里沙、田中美優、吉見涼佳、山崎基嘉、 <u>小川博</u>
油脂源の違いが高フルクトース食飼育ラットの糖・脂質代謝に及ぼす影響-血中の糖・脂質動態について-	共	平成 27 年 10 月 10 日	第 54 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会	梁川啓人、池田高紀、柄本なつみ、田中裕滋、上裕俊法、 <u>小川博</u>
油脂源の違いが高フルクトース食飼育ラットの糖・脂質代謝に及ぼす影響-肝臓の脂質動態と作用機構について-	共	平成 27 年 10 月 10 日	第 54 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会	柄本なつみ、池田高紀、梁川啓人、田中裕滋、上裕俊法、 <u>小川博</u>
若ゴボウ凍結乾燥粉末摂取がラットの腸内環境に及ぼす影響	共	平成 28 年 5 月 15 日	第 70 回日本栄養・食糧学会大会	池田高紀、柄本なつみ、梁川啓人、山崎基嘉、 <u>小川博</u>
酸化ストレス応答制御因子 Nrf2 は鉄と脂質の代謝を制御する	共	平成 28 年 10 月 22 日	第 55 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会	田中裕滋、池田高紀、山本和夫、 <u>小川博</u> 、上裕俊法
栽培条件の違いが若ゴボウの各種ポリフェノール含有量に及ぼす影響	共	平成 28 年 10 月 22 日	第 55 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会	内芝 歩美、二神 智里、正富 圭純、池田 高紀、柄本 なつみ、山崎 基嘉、 <u>小川博</u>
有機 JAS 認定農場で栽培されたスイスチャードの栄養学的特性に関する研究	共	平成 28 年 10 月 22 日	第 55 回日本栄養・食糧学会近畿支部大会	宮武 和孝、雪丸 高志、福田 ひろみ、山下 幸代、柄本 なつみ、池田 高紀、 <u>小川博</u>
Gender-divergent expression of lipid and bile acid metabolism related genes in adult mice offspring of dams fed a long-term high-fat diet before and during pregnancy and lactation.	共	平成 28 年 11 月 11 日-15 日	The 67th Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Diseases (AASLD) (Boston) 2016	Tanaka Y, Ikeda T, Yamamoto K, <u>Ogawa H</u> , Kamisako T.
<b>演奏会・発表会</b>				
国家試験受験体制と就職活動充実に向けた取り組み	共	平成 24 年 9 月 11 日	平成 23 年度 教育力向上に関する共同研究報告会	<u>小川 博</u> 、桂田昭彦、田中俊治
管理栄養士国家試験過去問の改訂冊子作成と傾向分析	共	平成 24 年 9 月 11 日	平成 23 年度 教育力向上に関する共同研究報告会	桂田昭彦、 <u>小川 博</u>
学生主導の国家試験対策と就職活動充実への取り組み	共	平成 25 年 7 月 23 日	平成 24 年度 教育力向上に関する共同研究報告会	<u>小川 博</u> 、田中俊治
<b>その他の研究発表、演奏</b>				
MISKAMISKA®の糖質・脂質代謝改善作用-高フルクトース食摂取ラットを用いて-	単	平成 25 年 2 月 14 日	ペルー産ハーブ機能性解明研究 第5回シンポジウム	小川 博
MACAXS®の食品機能性(動物試験からの評価)と機能性関与成分の解明	単	平成 25 年 2 月 14 日	ペルー産ハーブ機能性解明研究 第5回シンポジウム	小川 博
<b>その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)</b>				
国家試験受験体制と就職活動充実に向けた取り組み	共	平成 24 年 12 月	平成 23 年度 教育力向上に関する共同研究報告書	<u>小川 博</u> 、桂田昭彦、田中俊治(分担執筆, 1-8 頁)
管理栄養士国家試験過去問の改訂冊子作成と傾向分析	共	平成 24 年 12 月	平成 23 年度 教育力向上に関する共同研究報告書	桂田昭彦、 <u>小川 博</u> (分担執筆, 9-15 頁)
学生主導の国家試験対策と就職活動充実への取り組み	共	平成 25 年 12 月	平成 24 年度 教育力向上に関する共同研究報告書	<u>小川 博</u> 、田中俊治(分担執筆, 93-100 頁)
<b>研究助成金の受給状況</b>				

科研費の採択		
研究タイトル	助成金タイトル、支給元	研究代表者・分担者の区別
	支給額	支給年度
その他の外部資金による活動		
研究タイトル	助成金タイトル、支給元	研究代表者・分担者の区別
	支給額	支給年度
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要
学内委員等		
就任期間	機関名・委員名・役職名	
平成 19 年4月～現在	食物栄養学科長	
平成 19 年4月～現在	入試作問・採点委員(化学作問委員長)	
平成 19 年4月～平成 25 年3月	入試委員会第1部会委員	
平成 19 年4月～平成 27 年3月	入試委員会第2部会委員	
平成 20 年4月～現在	衛生委員会委員(平成 28 年 10 月～委員長)	
平成 21 年4月～現在	自己点検・評価委員会委員(平成 27 年4月～FD・SD 推進委員会機能含む)	
平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月	学院改革会議・大学部会委員	
平成 22 年4月～現在	入試運営委員会委員	
平成 24 年4月～平成 29 年 3 月	大学ホームページワーキンググループ委員	
平成 25 年4月～現在	帝塚山学院中学・高校 学校薬剤師	
平成 25 年4月～現在	帝塚山学院泉ヶ丘中学・高校 学校薬剤師	
平成 26 年4月～平成 28 年 3 月	大学研究倫理審査委員会委員長	
平成 27 年4月～現在	入試広報委員会委員	
平成 27 年4月～現在	オープンキャンパス運営委員会委員	
平成 27 年4月～現在	合否判定案作成委員会委員	
平成 27 年4月～現在	AO 入試委員会委員	
平成 28 年4月～現在	学生募集委員会委員	
平成 28 年4月～現在	認証評価ワーキンググループ委員	
社会活動		
学会役員		
就任期間	学会役員名	
平成元年4月～現在	日本衛生学会評議員	
平成4年9月～現在	SHR学会評議員	
平成4年 10 月～現在	日本栄養・食糧学会近畿支部役員	
平成 14 年4月～現在	油脂・コレステロール研究会理事	
平成 21 年6月～現在	日本栄養・食糧学会参与	
公開講座		

講座名、講演タイトル	単共 の別	年月	場所	概要
食品の機能性と生活習慣病予防への対応	単	平成26年10月15日	泉ヶ丘キャンパス318教室	最初に、生活習慣病について概説した。そして参加者の方が各自心配されている生活習慣病に関し、食品の第三次機能(疾病の予防・改善等)の観点から生活習慣病への対応について解説した。
家庭における食の安全と食中毒防止の実践	単	平成27年6月3日	大阪狭山市立公民館	身近に起きる食中毒の発生状況と食中毒の種類について概説した。その後、主要な食中毒であるカンピロバクターとノロウイルスについて特徴、予防法等について詳説し、注意を呼びかけた。
<b>学外機関委員等</b>				
<b>就任期間</b>		<b>機関名・委員名・役職名</b>		
平成22年4月～現在		近畿大学医学部付属病院臨床研修管理委員会外部委員		
平成26年2月～平成29年3月		大阪薬科大学研究調査委員会外部委員		
<b>その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項</b>				
第55回日本栄養・食糧学会近畿支部大会(平成28年10月22日、本学泉ヶ丘キャンパスにて開催)会頭				
<b>海外での活動</b>				
<b>海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること</b>				
<b>期間</b>	<b>国名</b>	<b>概要</b>		